

2025 年度 授業コード: 21102600

授業科目	＊基礎看護学実習Ⅰ					実務家教員担当科目	－
単位	1	履修	必修	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	長崎 恵美子／梶原 江美／幸 史子／隅田 由加里／中島 紀江／西田 彩子						
授業概要	病院における看護の実際および入院生活を送る対象者の療養環境の実際の見学、対象者とのコミュニケーションの実践を通して、病をもち入院生活を送る対象者が抱える思いについて考察する。また、対象者と関わる中で、生活上のニーズを満たすために必要な看護援助について考え、根拠に基づいて実践する。これらの過程を通して、看護者としての基礎的能力を養う。 実務家教員として、看護師として病院に勤務した経験を活かし、実際の医療現場での現状や入院生活を送る対象者との関わりについての具体等を提示して、本科目への理解を深めるよう支援する。また、臨地実習指導者と連携を図り、学生が目標到達できるように関わる。						
授業形態	対面授業			授業方法	・ 臨地実習 ・ Classroom を活用した連絡、看護実習の実際や心構えについての動画視聴 ・ 対面授業でのオリエンテーション		
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	詳細は看護学実習要綱1 2025 の実習目標を参照。 臨地実習指導者や教員の支援を受けて、実習目標の達成に向けて実施する。 【実習目標】 1. 担当患者とのコミュニケーションを通して、療養生活について考察できる。 2. 担当患者に必要な看護援助について、根拠をもとに実践できる。 3. 看護者に求められる態度・姿勢について考え、行動することができる。						
理想的レベル	詳細は看護学実習要綱1 2025 の実習目標を参照。 臨地実習指導者や教員の支援を受けて、実習目標の達成に向けて実施する。 【実習目標】 1. 担当患者とのコミュニケーションを通して、療養生活について考察できる。 2. 担当患者に必要な看護援助について、根拠をもとに実践できる。 3. 看護者に求められる態度・姿勢について考え、行動することができる。 さらに、患者に行った看護援助や自らの行動1つ1つの振り返りができ、すべてにおいて主体的に実習し、他メンバーのモデルとなるような姿勢で臨むことができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法			評価割合（数値）			備考	
試験							
小テスト							
レポート			25				
発表（口頭、プレゼンテーション）			25				
レポート外の提出物							
その他			50			看護実践を実習目標に沿って評価する	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング									
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	ナンバリング	NU11211J
学習課題（予習・復習）									1 回の目安時間（時間）
予習・復習：実習に必要な知識や看護技術について、既習の知識や技術を活用するとともに、新しい知識について調べて学習したり、看護技術を自主的に練習する。									0
授業計画									
第 1 回	基礎看護学実習 I（1 単位）の詳細は「看護学実習要綱 1 2025」を参照。 1. 実習単位・時間数：1 単位 45 時間 2. 実習期間：2026 年 2 月 9 日（月）～2 月 20 日（金）のうちの 5 日間（※土・日・祝日を除く） 3. 実習時間：8 時 30 分～15 時 30 分、（※学内実習時間は 9 時 00 分～16 時 00 分） 4. 実習概要：事前にオリエンテーションを実施し、実習病院・病棟別にグループに分かれて実習を行う。 日常生活援助を必要とする患者を受け持ち、患者との関係性を築きながら療養生活上のニーズを見出し、援助計画を考えて根拠に基づいて援助を実践する。また、看護者に求められる姿勢や態度について考え、行動する。								
テキスト	・看護学実習要綱 1 2025：基礎看護学実習 I（1 年生）								
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	学内学習および病院実習中に適宜、紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	実習時間中やカンファレンス、実習最終日の面接等でフィードバックを行う。								
学生へのメッセージ・コメント	患者さんを受け持つ初めての实習となります。初めてのことに不安や緊張があるかもしれません。しかし、この 1 年間で学習し、得た知識や看護技術を活かし、患者さんのために必要な援助を考えて実践することは、看護の醍醐味でもあります。実習でしか得られないことも多くあります。自らの努力や患者さんに向き合う姿勢は、患者さんの反応としてすべて自分に返ってきます。得られた努力の結果は、今後の看護観に大きな実をつけてくれます。これらの経験の機会を与えてくださる患者さんや病院に感謝しつつ、事前学習を充分に行って臨みましょう。 また、インフルエンザ等の感染症が流行する時期ですので、感染予防対策を行い、自己の健康管理に努めましょう。								